



学校だより

浮舟

u k i f u n e

令和6年8月29日(木)
第17号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1
TEL 0244-44-2023

相双地区中学生英語弁論大会

昨日 28 日(水)、浮舟会館を会場として第2回相双地区英語弁論大会が開催されました。昨年度から相馬地区と双葉地区の合同大会となり、相双地区のほぼ中間地点と言える小高区を開催場所として、2年連続となる本会場での開催となりました。大会には本校から暗唱の部に2年井島さん、創作の部に3年佐藤(瑚)さんが出場しました。また、開会セレモニーでは本校生徒会を代表して3年カールさんが歓迎の言葉(Welcome Speech)を行い、大会を地元色の花で飾ることができました。(←カールさんのスピーチの様子)



井島さん、そして佐藤さんともに校内発表の時以上に上手な発表をすることができました。特に井島さんの堂々とした表情やジェスチャー、そして一音一音を意識した丁寧な英語の発音は大変聞き取りやすい素晴らしいスピーチでした。また、佐藤さんのスピーチでは、ジェンダーに対する自分の考えを実体験に基づいてコンパクトにまとめ上げ、説得力あるスピーチで聴衆を魅了していました。スピーチ原稿をもとに参考までに日本語訳を下欄に掲載しましたので、ご一読ください。



審査結果は両名とも6位入賞とはなりませんでしたが、英語弁論大会出場という貴重な経験ができたことこそ、かけがえのない人生の宝物となったことでしょう。夏休みの練習も含め、本当にお疲れさまでした。

「私が私らしくいられるように」

「(こなつ)、この色の靴の方が似合うよ!」

母は、女の子らしいデザインの白い靴を私の足に履かせながらそう言った。「私は黒がいいんだけど…」

「男の子っぽい靴を履くの?こっちの方が可愛いし、あなたにはずっと似合うわよ」家族と買い物に行くと、いつもこう言われていた。「もっと女性らしくして可愛いものを選んでみたら?」「女の子なんだから、もう少し女性らしくしなさいよ」しかし、成長するにつれて、いつも「女の子らしくしなさい」と言われることが不安になり、胸に重くのしかかるようになった。

私は4人兄弟の中で唯一の女の子。両親は最初から、ずっと夢見ていた娘として大切に育ててくれた。最初は、フリルやリボンを着せてもらって嬉しかった。でもいつからか、「女の子らしくしなさい」と言われることで、本当に着たい服や選びたい色を選べなくなったり、本当にやりたいことをできなくなったりするのではないかと感じるようになりました。「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」など、性別で好みを決められるのではなく、「自分らしくあること」を大切にするにはどうすればいいのでしょうか。

私の学校は生徒数34名の小さな学校です。どの学年も女子のほうが男子より多く、ある学年では男子は2人しかいません。しかし、クラスでの話し合いや学校行事では、男子向けと女子向けと分けて考えることはせず、「やりたい人・できる人がやる」という考え方で取り組んでいます。例えば、スポーツや力仕事はあまり得意ではないけれど、繊細な作業が必要なものづくりは得意な男子もいます。一方で、私のように他の男子応援団の生徒と同じように、ハチマキを巻いて堂々と全校生徒の前で大声をあげても恥ずかしくない生徒もいます。仕事を男女で分けしてしまうと、できることの幅が狭まってしまい、本当にやりたいことができなくなってしまいます。

皆さんに問いたいのは、自分や周りの人を見て「男性だから」「女性だから」と思ったとき、あるいは「男性なのに」「女性なのに」と性別で判断しそうになったとき、「性別で区切ったことが今本当に必要なのか」と立ち止まって考える癖をつけたらどうでしょうか。もし「それって男性の仕事じゃないの?」とプレッシャーをかけられたら、「本当に性別と関係ないの?そんなの関係ない」と声を上げたいです。だから、自信を持って言いたいです。

「高校生になったら、自分の好きなスタイルを選んでスラックスを履いて学校に行きたいです。」

(注: 英文原稿意訳のため、作者の意図と若干異なる表現となっている場合があります)